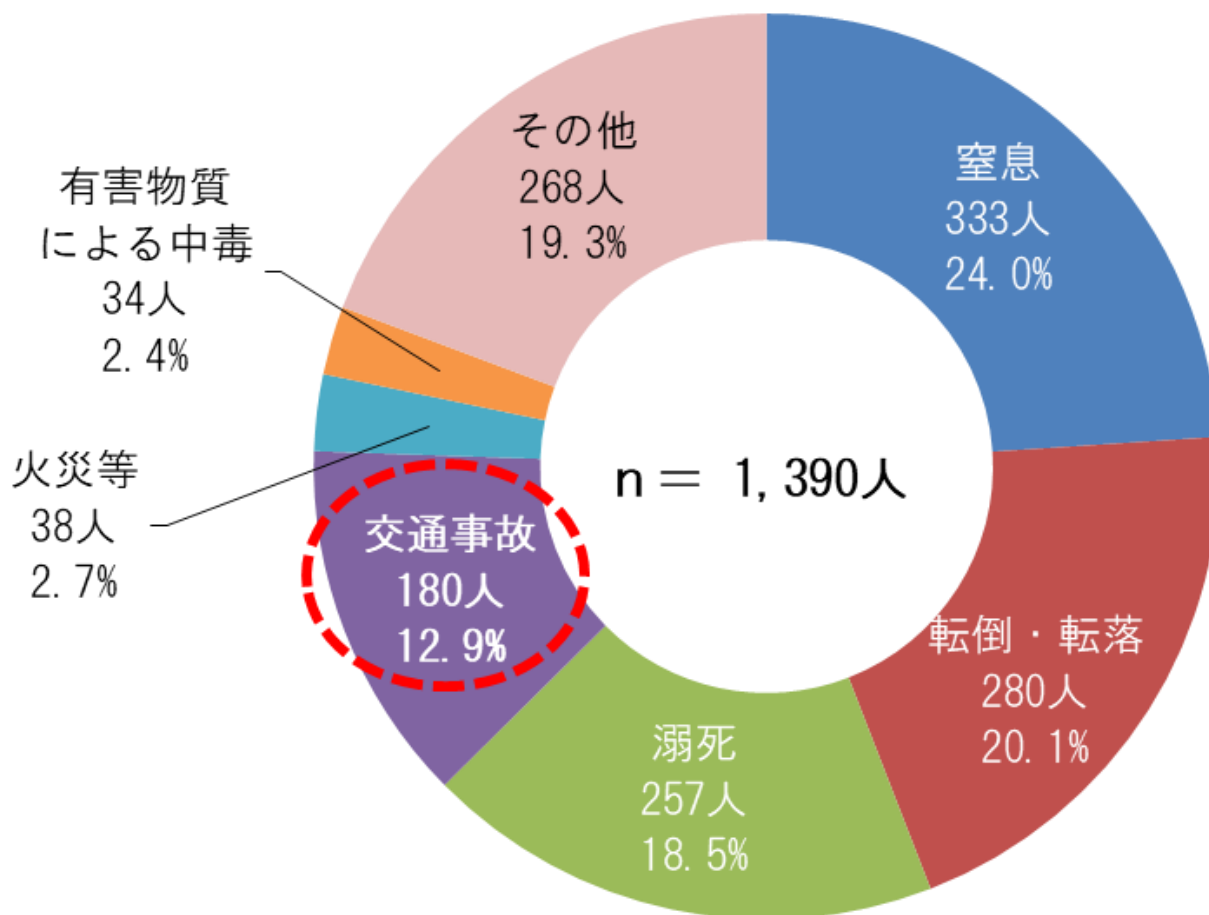


# 1 不慮の要因による死者の状況

不慮の要因による死者のうち、約13%が交通事故で亡くなっている。

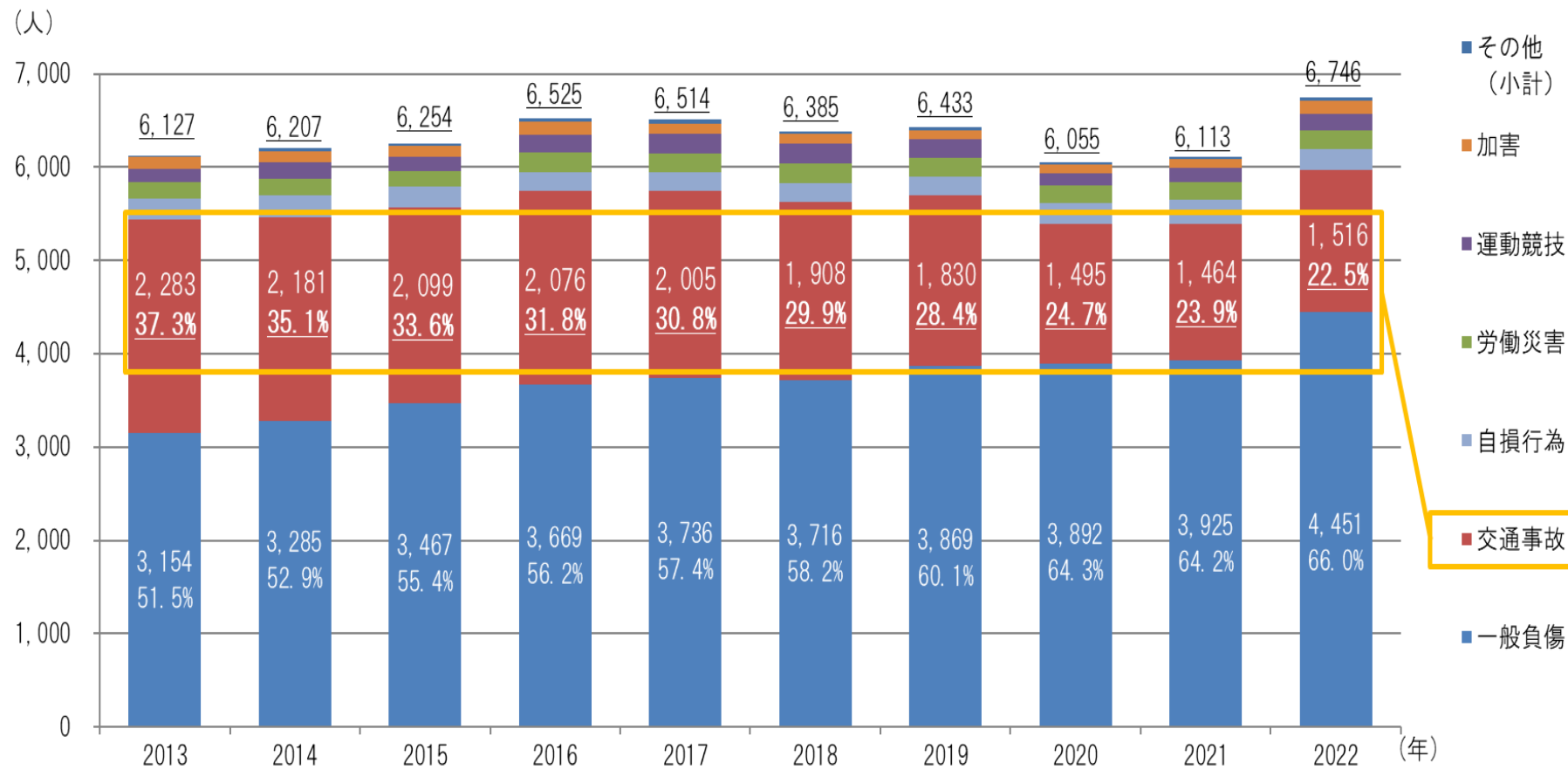
## ■ 不慮の事故による原因別死亡者の状況



## 2 事故別救急搬送の状況

救急搬送者のうち、2割から3割が交通事故に起因している。

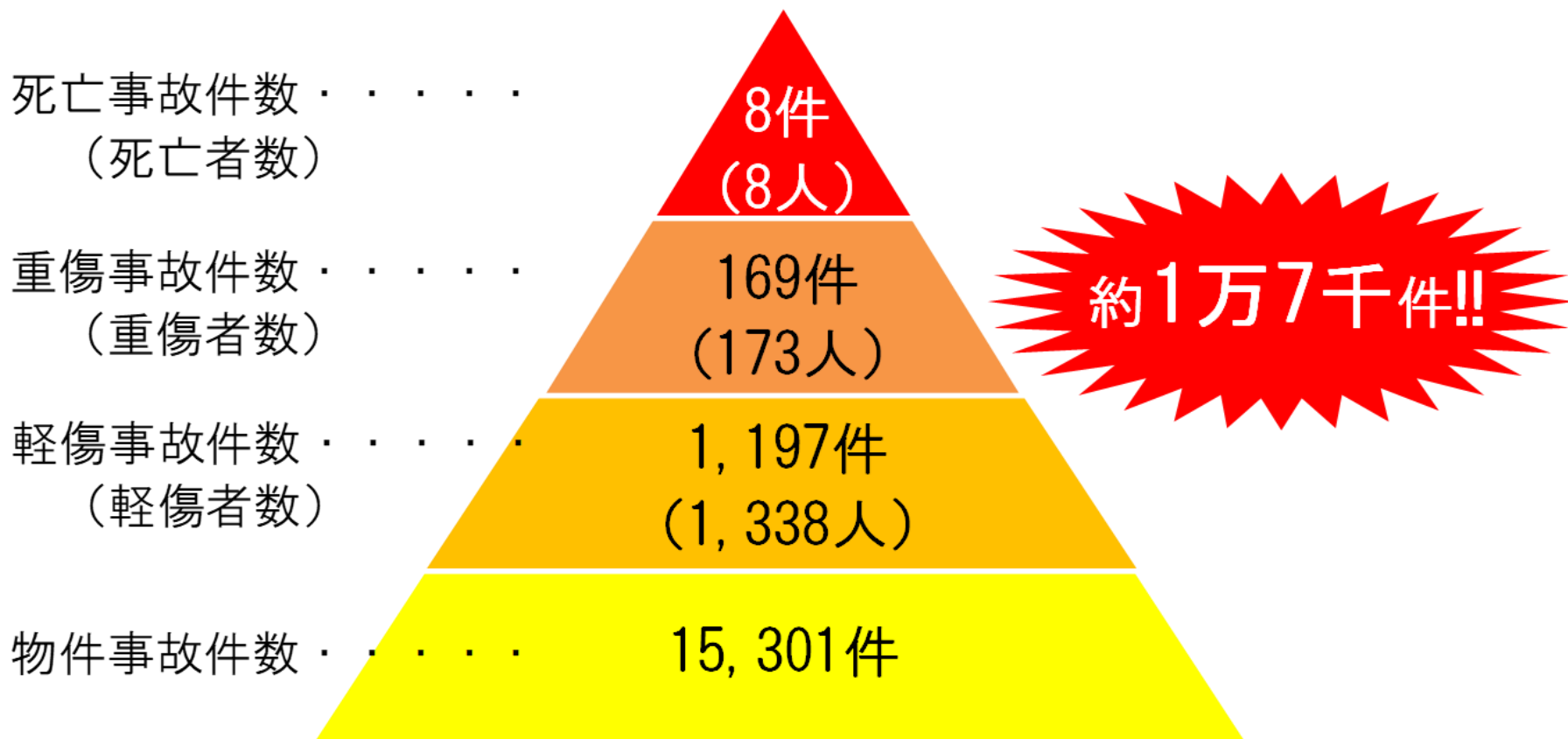
### ■ 事故別救急搬送の状況



### 3 交通事故発生件数（物損事故を含む）

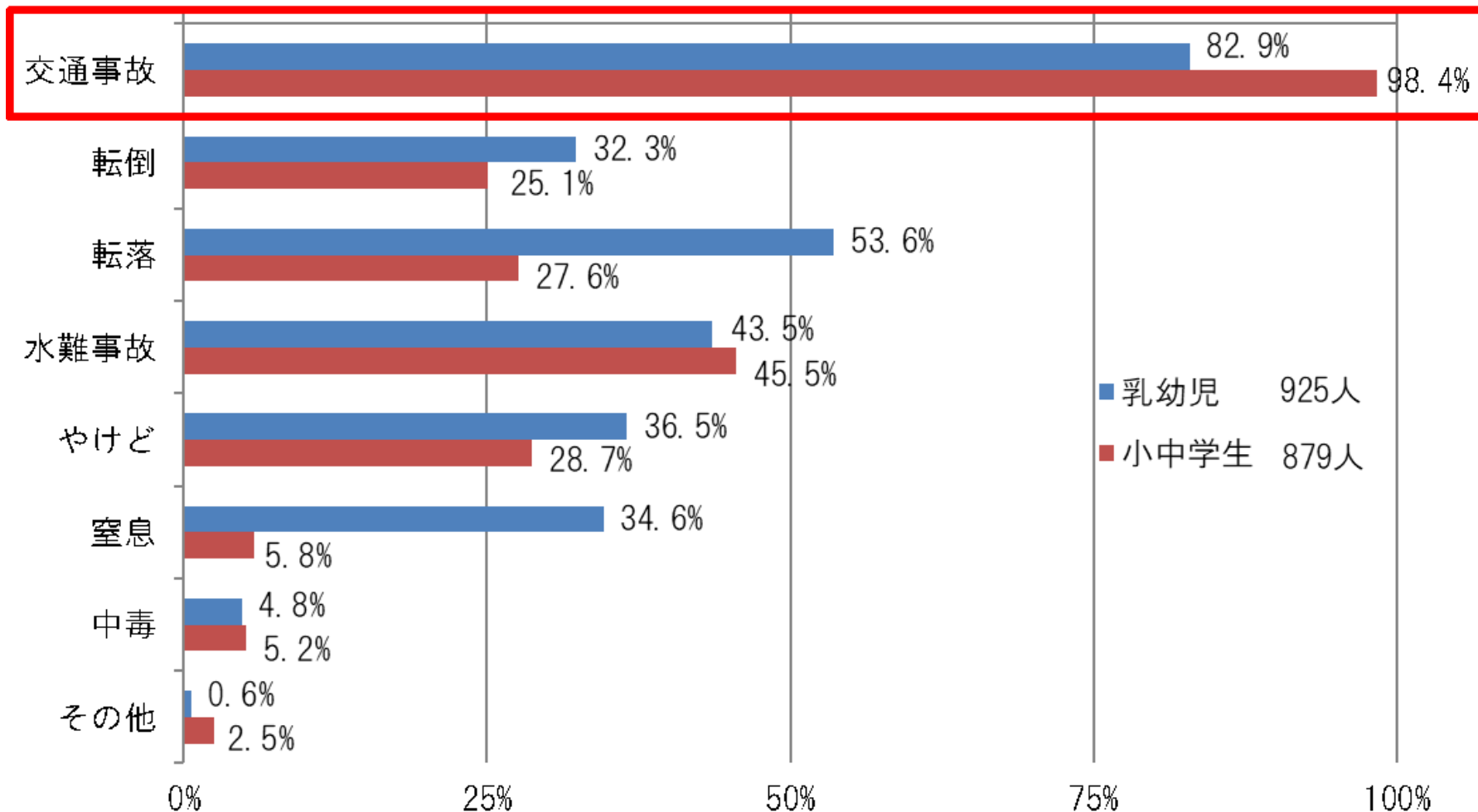
年間約1万7千件の交通事故が発生しており、約1,500人が死傷している。

#### ■交通事故発生状況



# 4 子どもの保護者が懸念する事故の種類

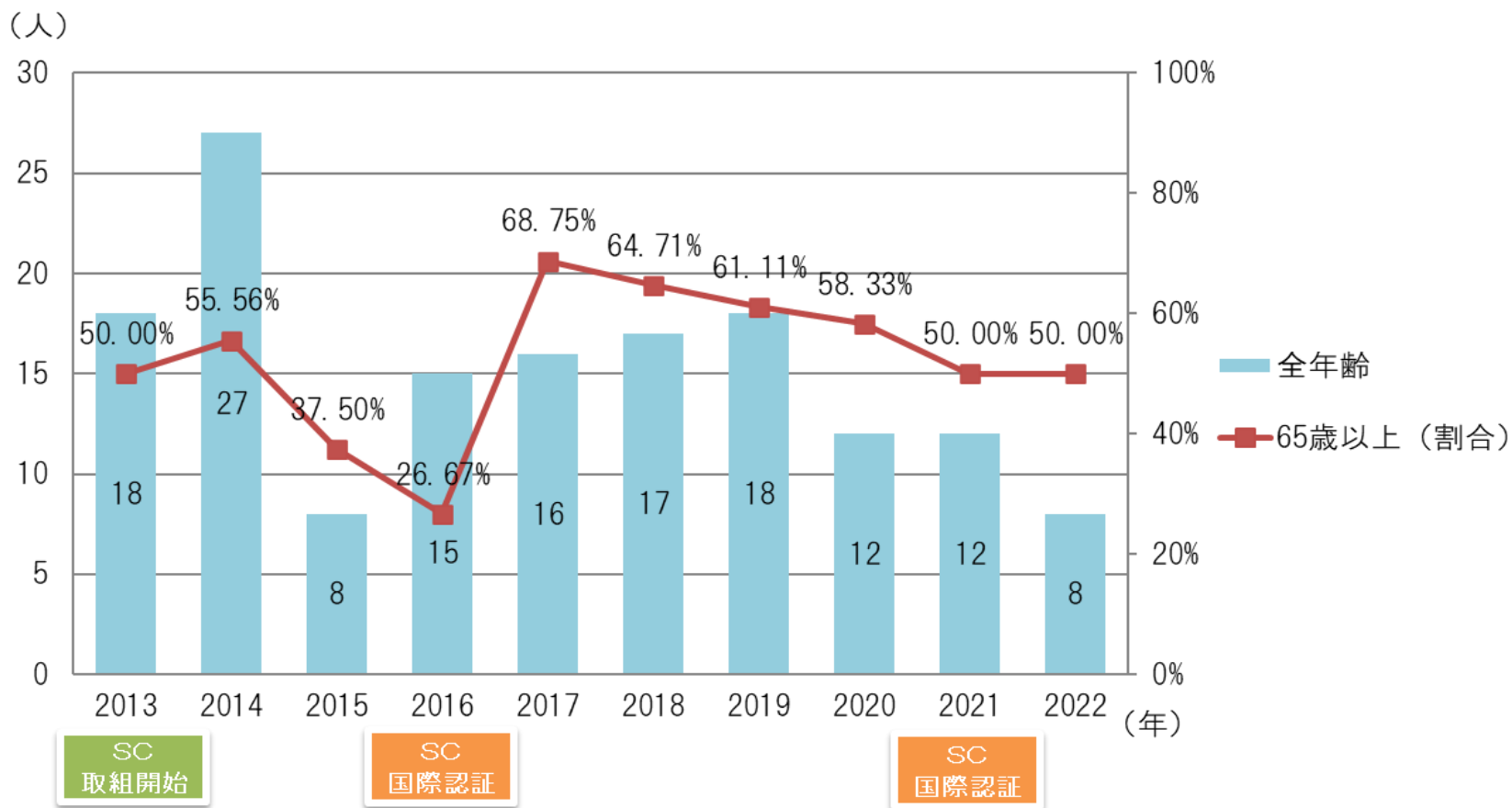
保護者の多くは、子どもの「交通事故」を懸念している。



# 5 交通事故発生状況（死者）の推移①

交通事故の死者は、2016年以降増加傾向にあったが、2020年から減少に転じている。また、65歳以上の割合は2017年を境に減少傾向にあり、2022年は5割まで減少している。

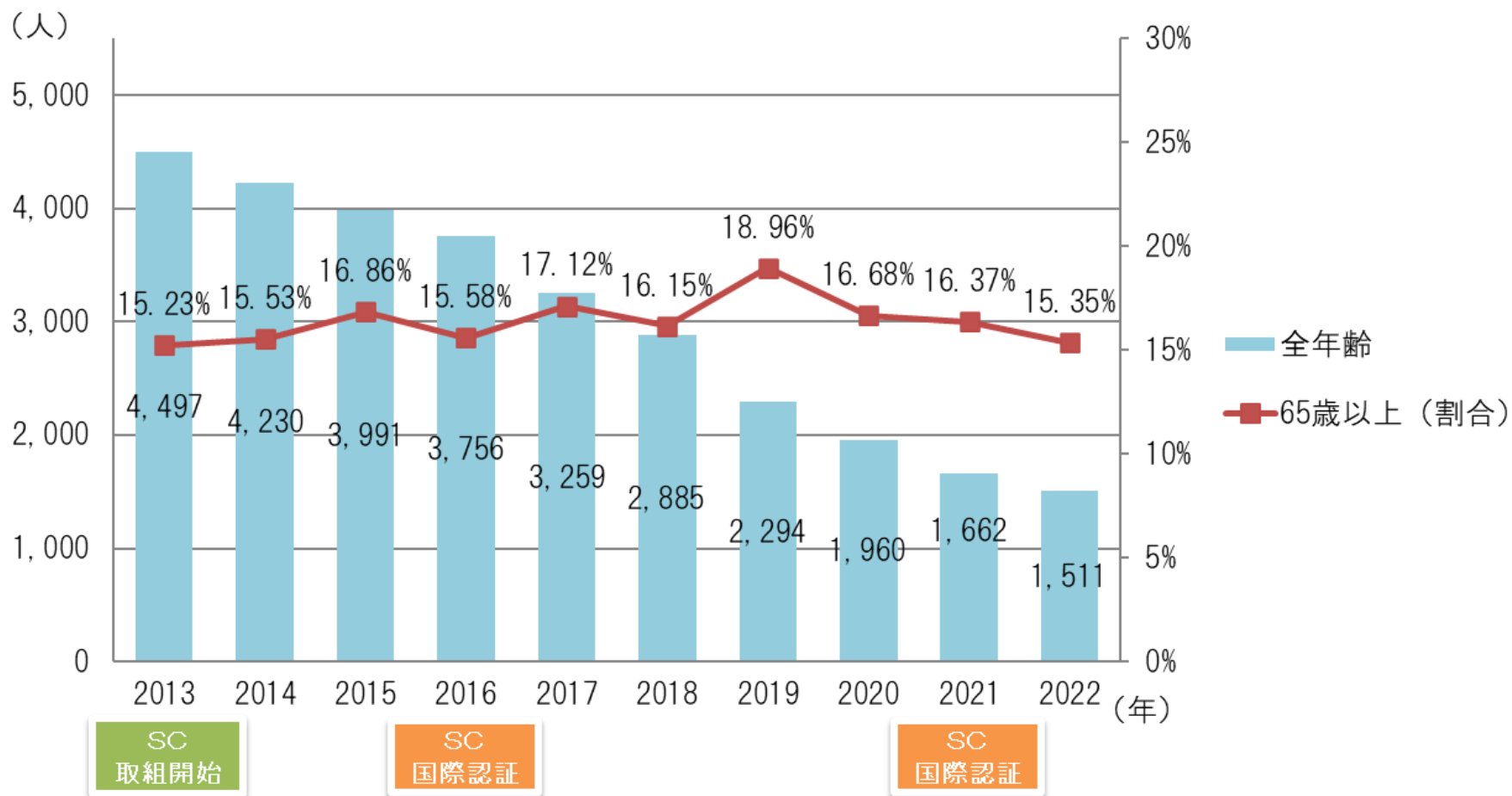
## ■ 交通事故死者の推移



## 5 交通事故発生状況（負傷者）の推移②

交通事故の負傷者は減少傾向にあり、65歳以上の割合は増減を繰り返している。

### ■ 交通事故負傷者の推移

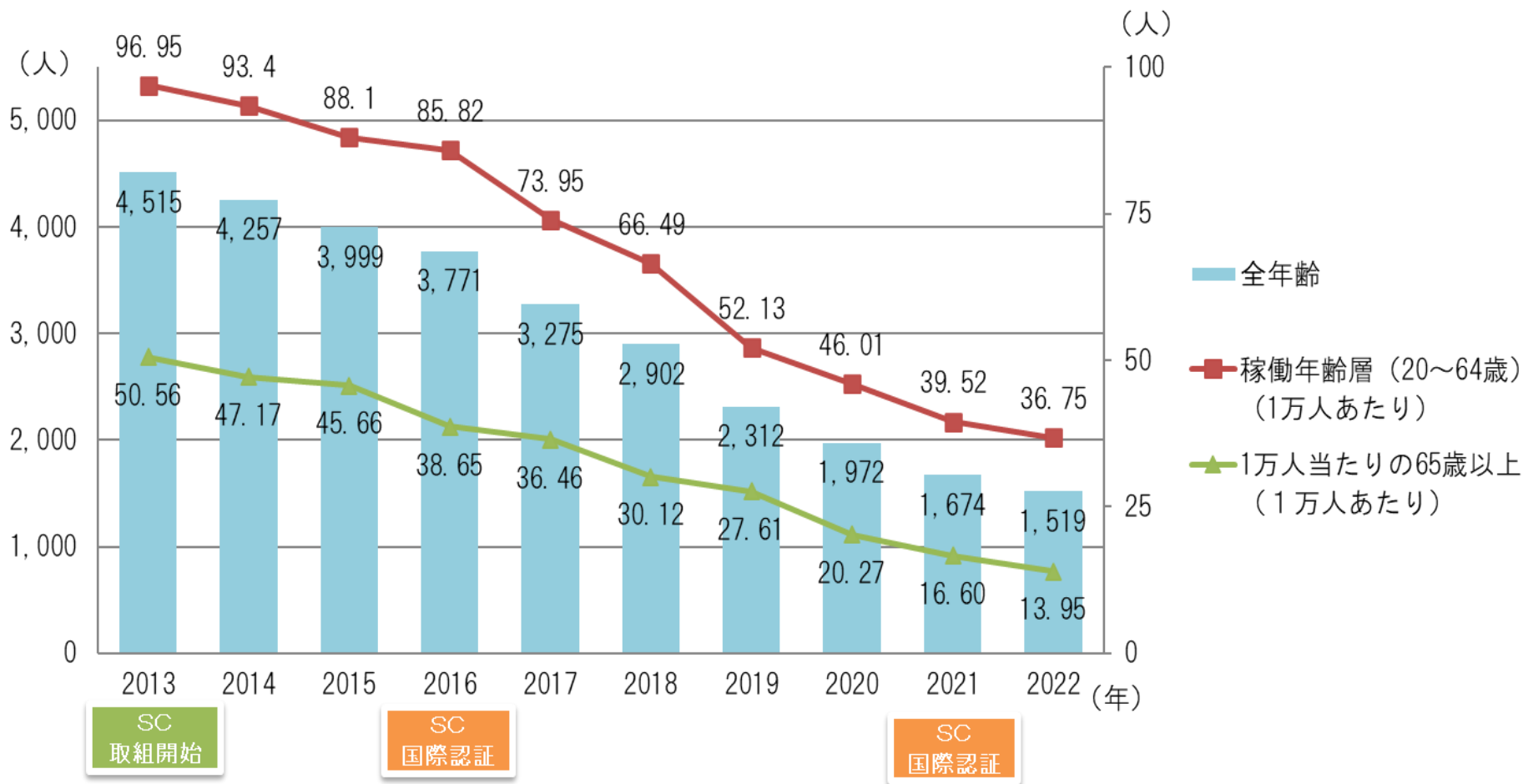


【出典】鹿児島県警察本部(交通企画課)調べ 【データ】市(高速道路を除く)、両性、全年齢、65歳以上、2013年～2022年

# 5 交通事故発生状況（死傷者）の推移③

交通事故死傷者は年々減少し、1万人あたりの稼働年齢層及び65歳以上も年々減少している。

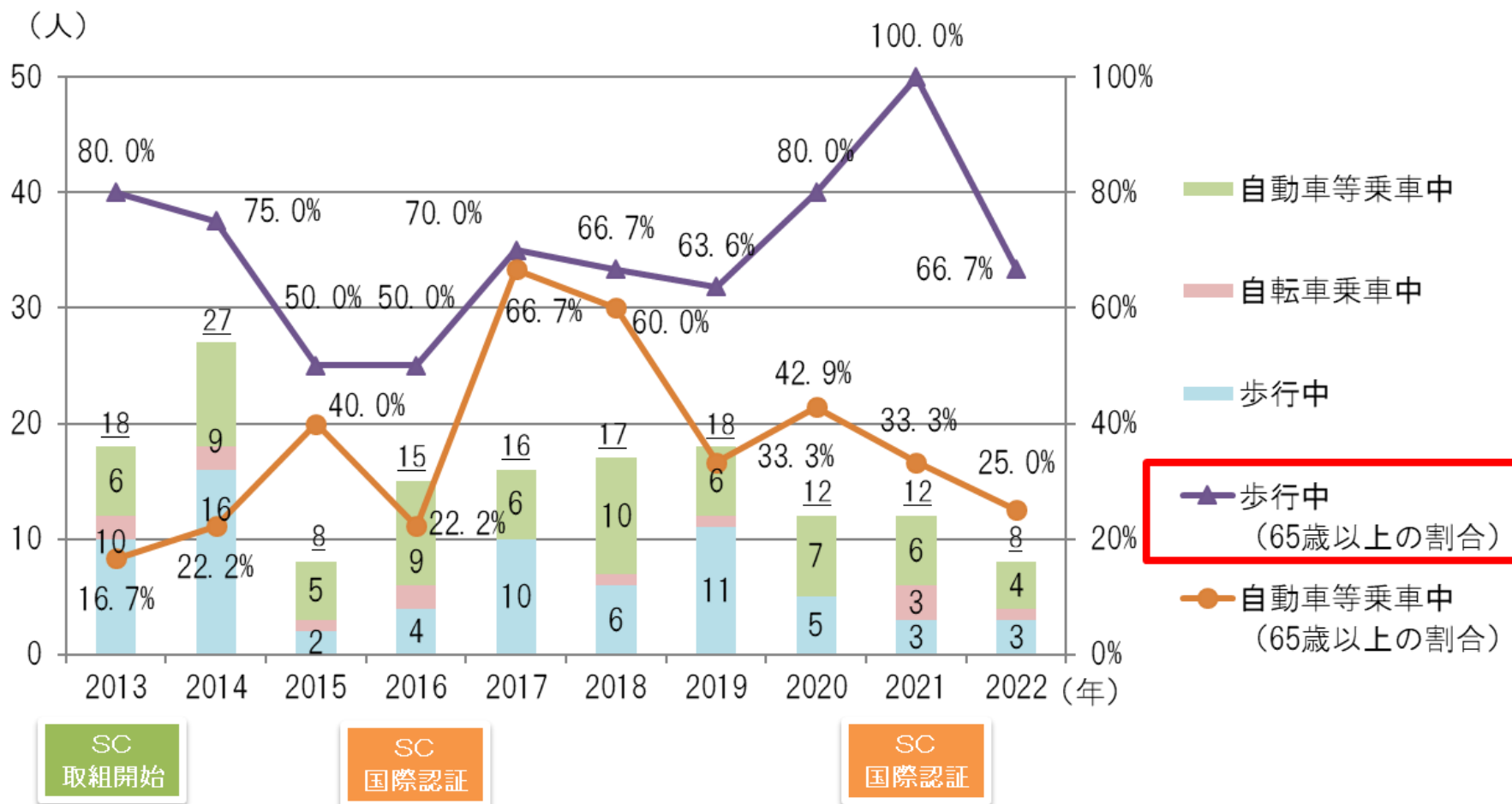
## ■ 交通事故死傷者の推移



## 6 交通事故状態別（死者）の発生状況①

交通事故状態別（死者）は自動車等乗車中及び歩行中が多く、2022年の歩行中の死者のうち高齢者が約7割を占めている。

### ■交通事故死者（状態別）の推移

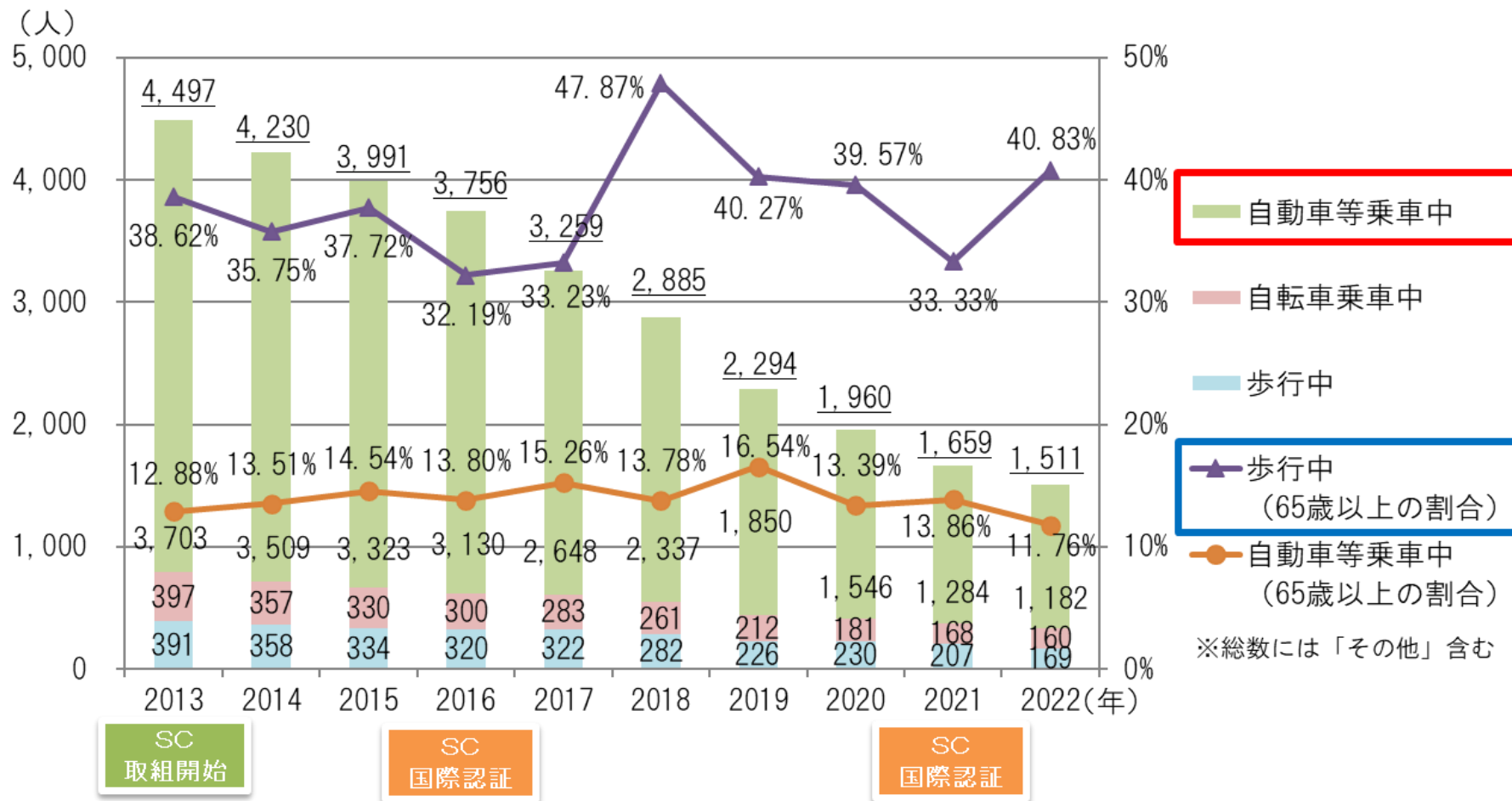




## 6 交通事故状態別（負傷者）の発生状況②

交通事故状態別（負傷者）では、自動車等乗車中が約8割を占めており、2022年の歩行中の負傷者のうち高齢者が約4割を占めている。

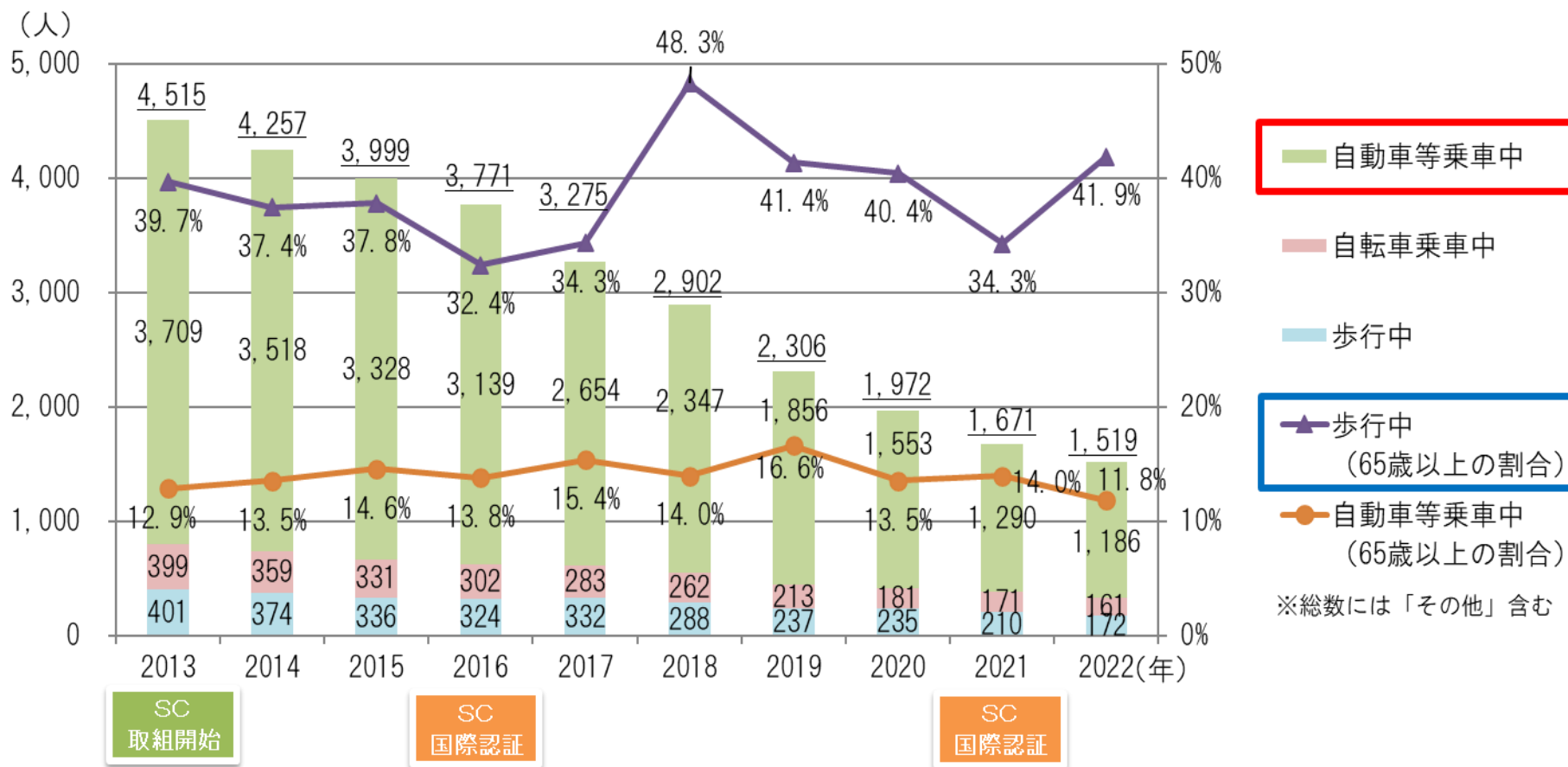
### ■交通事故負傷者（状態別）の推移



## 6 交通事故状態別（死傷者）の発生状況③

交通事故状態別（死傷者）では、自動車等乗車中が約8割を占めており、2022年の歩行中の死傷者のうち高齢者が約4割を占めている。

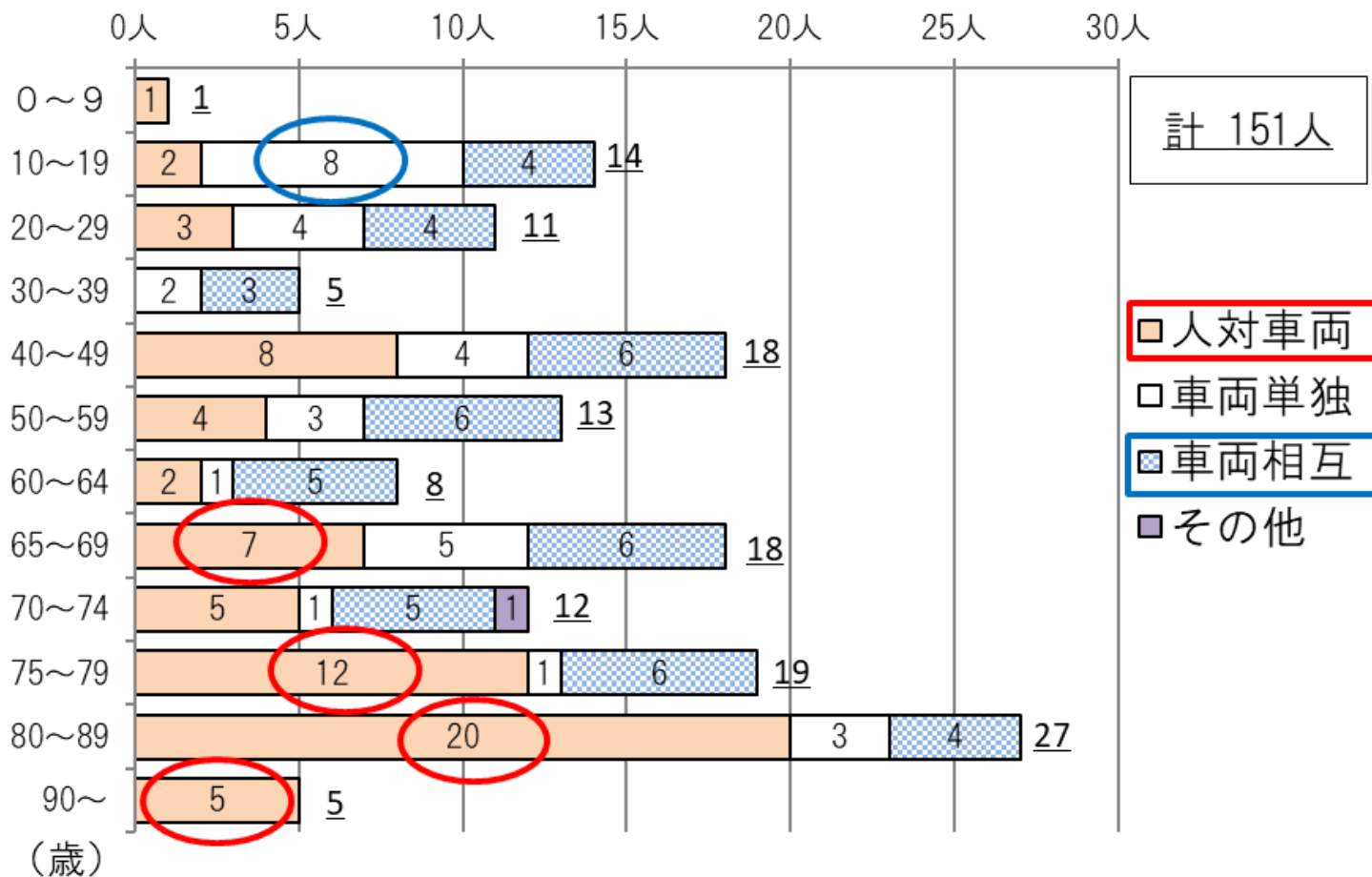
### ■交通事故死傷者（状態別）の推移



# 7 交通事故類型（死者）の発生状況①

交通事故類型（死者）は、10代は車両単独、65歳以上は人対車両が多くを占めている。

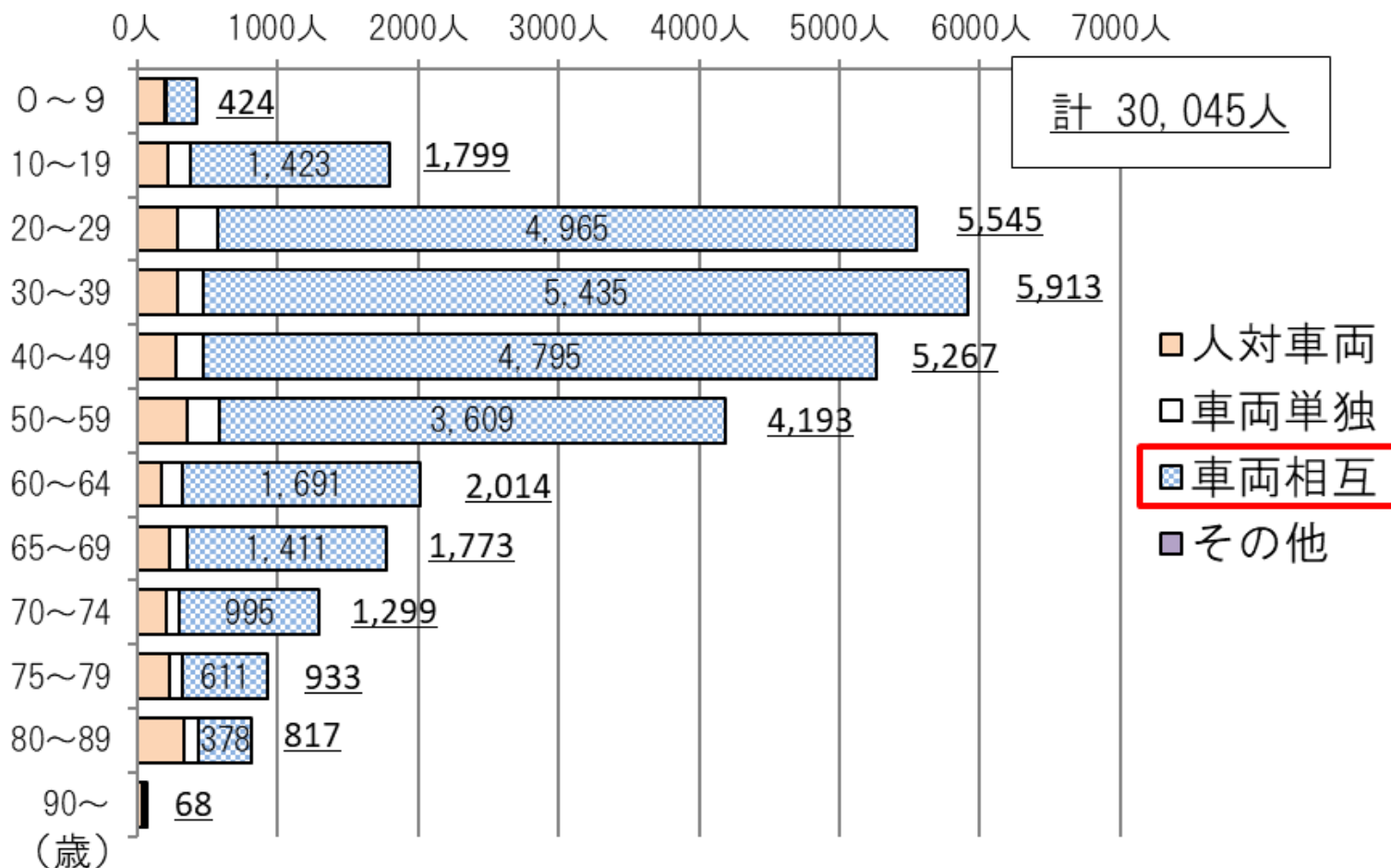
## ■ 年齢層別・事故類型別死者数



# 7 交通事故類型（負傷者）の発生状況②

交通事故類型（負傷者）は、全年齢層において、車両相互が多くを占めている。

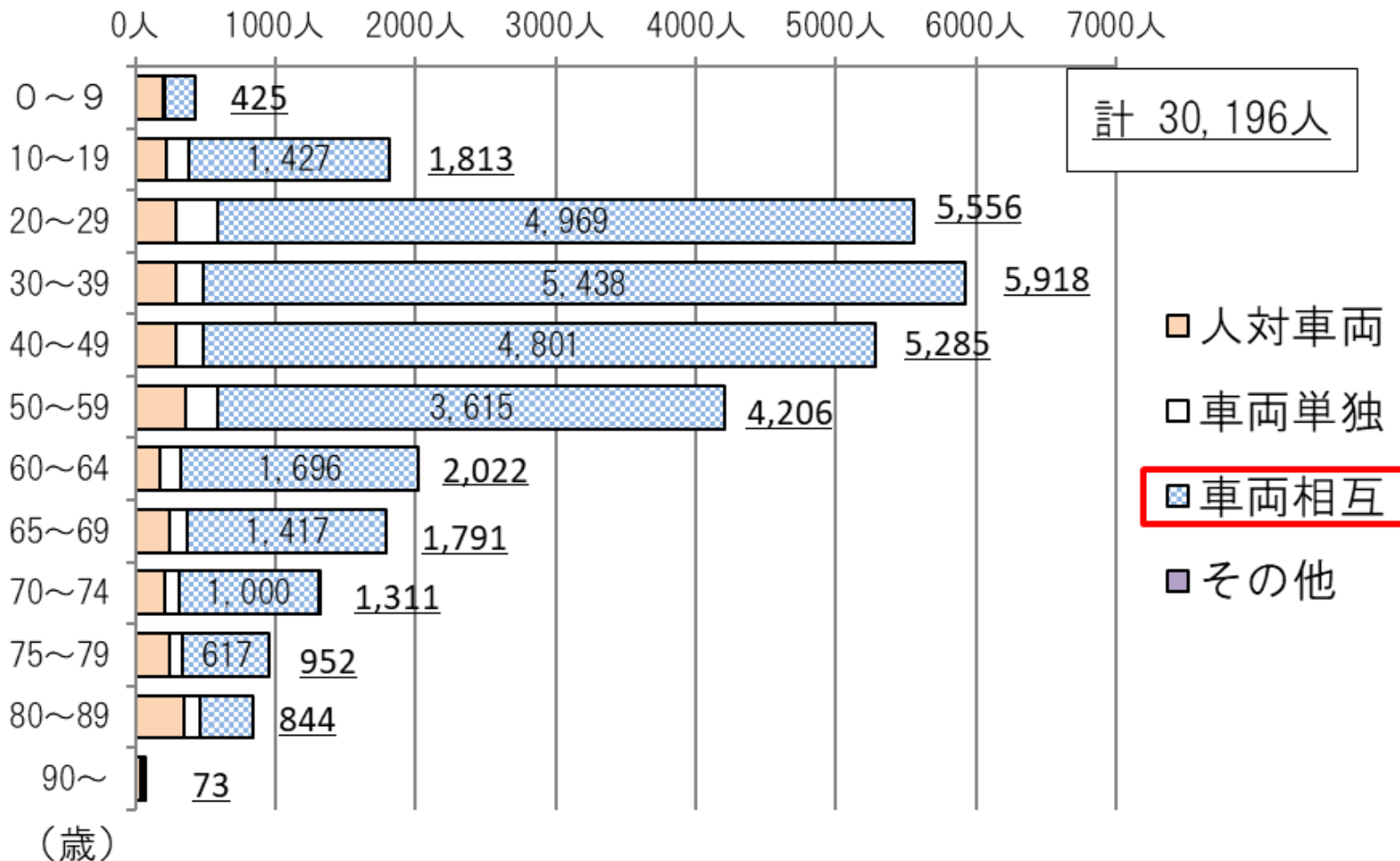
## ■ 年齢層別・事故類型別負者数



# 7 交通事故類型（死傷者）の発生状況③

交通事故類型（死傷者）は、全年齢層において、車両相互が多くを占めている。

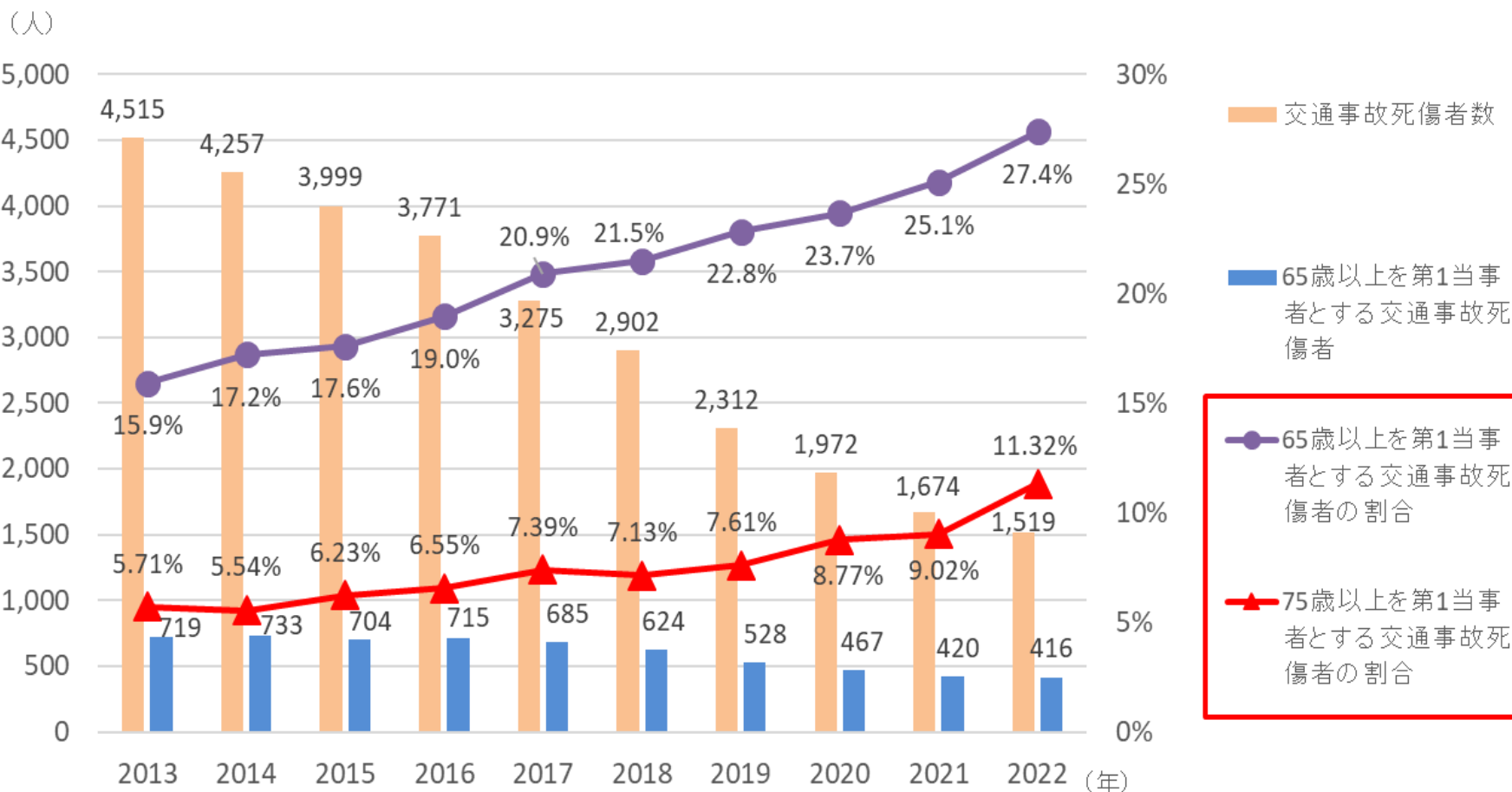
■ 年齢層別・事故類型別死傷者数



# 8 高齢運転者が第1当事者になった死傷者の状況

交通事故死傷者が年々減少するなか、65歳以上の高齢運転者が第1当事者となった死傷者数の割合は、年々増加している。

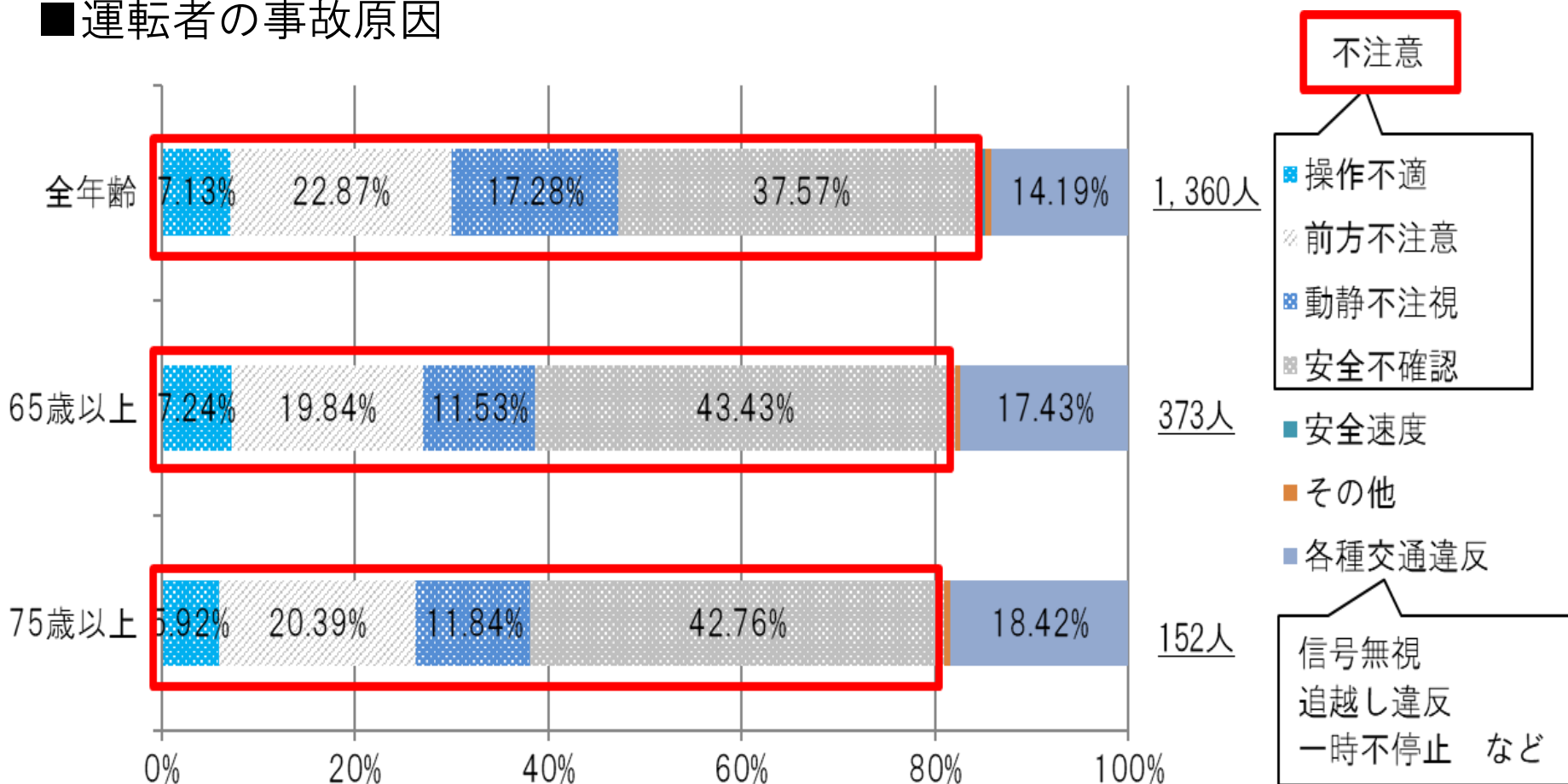
## ■ 高齢者運転者が第1当事者となった交通事故死傷者の推移



# 9 車両（軽車両を除く）運転者の事故原因

交通事故の原因は、運転者のちょっとした不注意が大部分を占めている

## ■運転者の事故原因

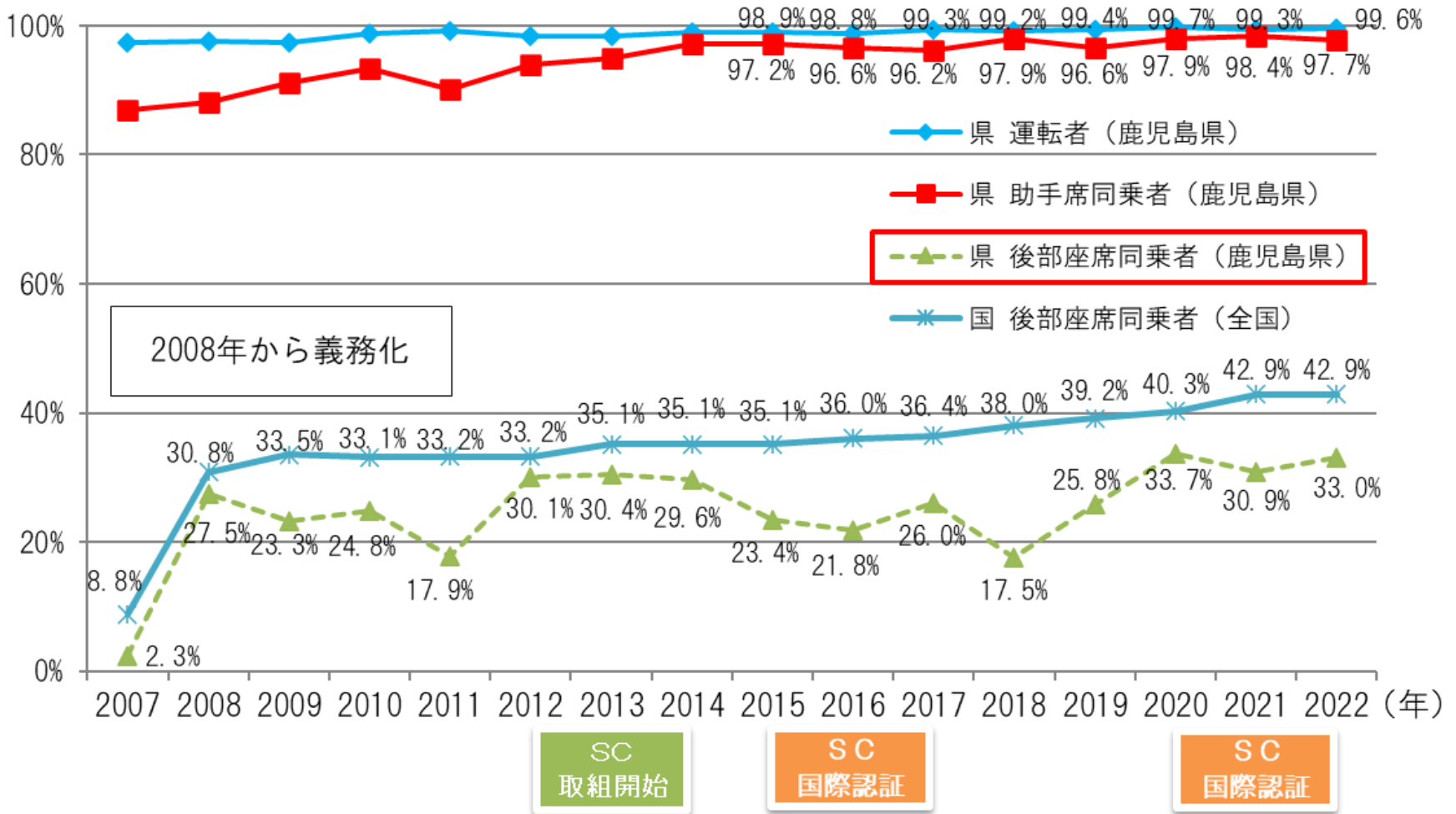


【出典】鹿児島県警察本部(交通企画課)調べ 【データ】市(高速道路を除く)、両性、全年齢ほか、2022年  
 ※車両(軽車両を除く)・路面電車に原因(第1当事者のみ)

# 10 シートベルト着用率の推移

鹿児島県の後部座席シートベルト着用率は、全国に比べて低くなっている。

## ■シートベルト着用率の推移



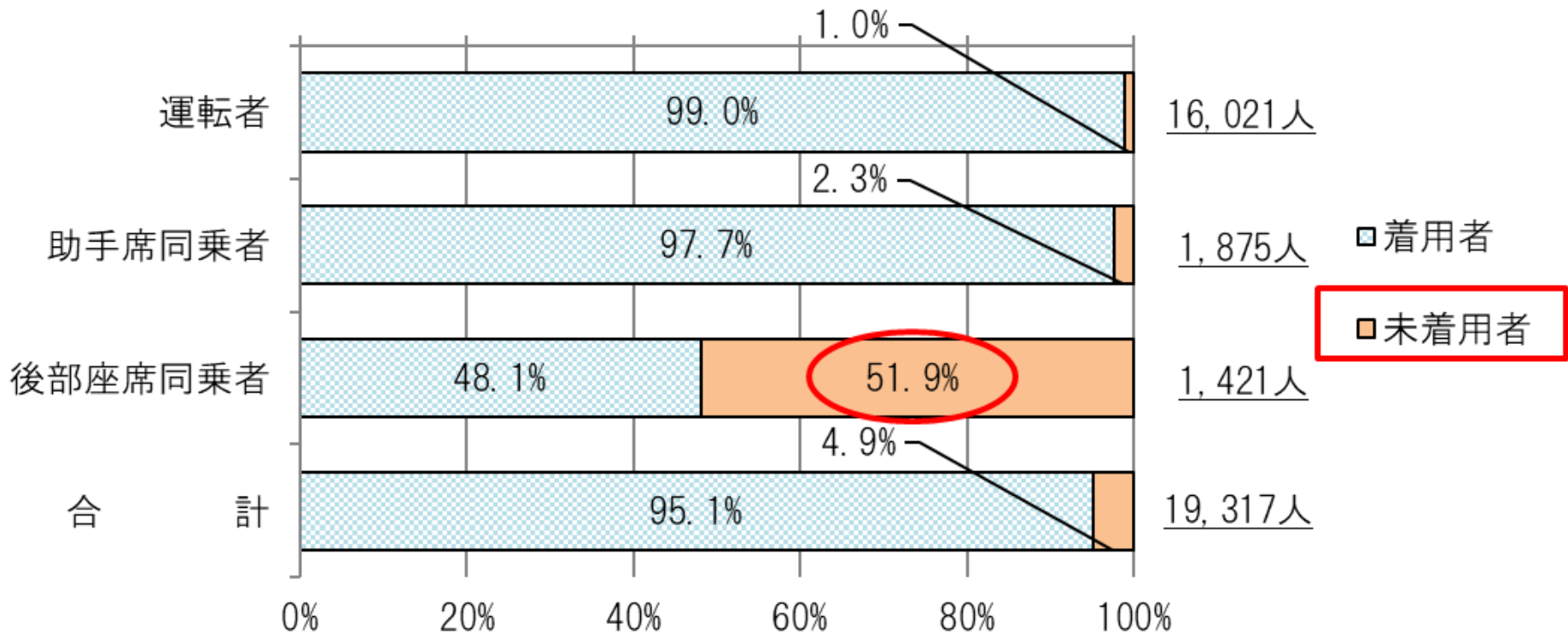
【出典】シートベルトの着用状況全国調査(警察庁、日本自動車連盟)  
 【データ】県・全国(一般道路のみ)、両性、全年齢、2007年~2022年



# 11 シートベルト未着用による交通事故死傷者数①

後部座席同乗者のうち、シートベルト未着用者の死傷率が非常に高くなっている。

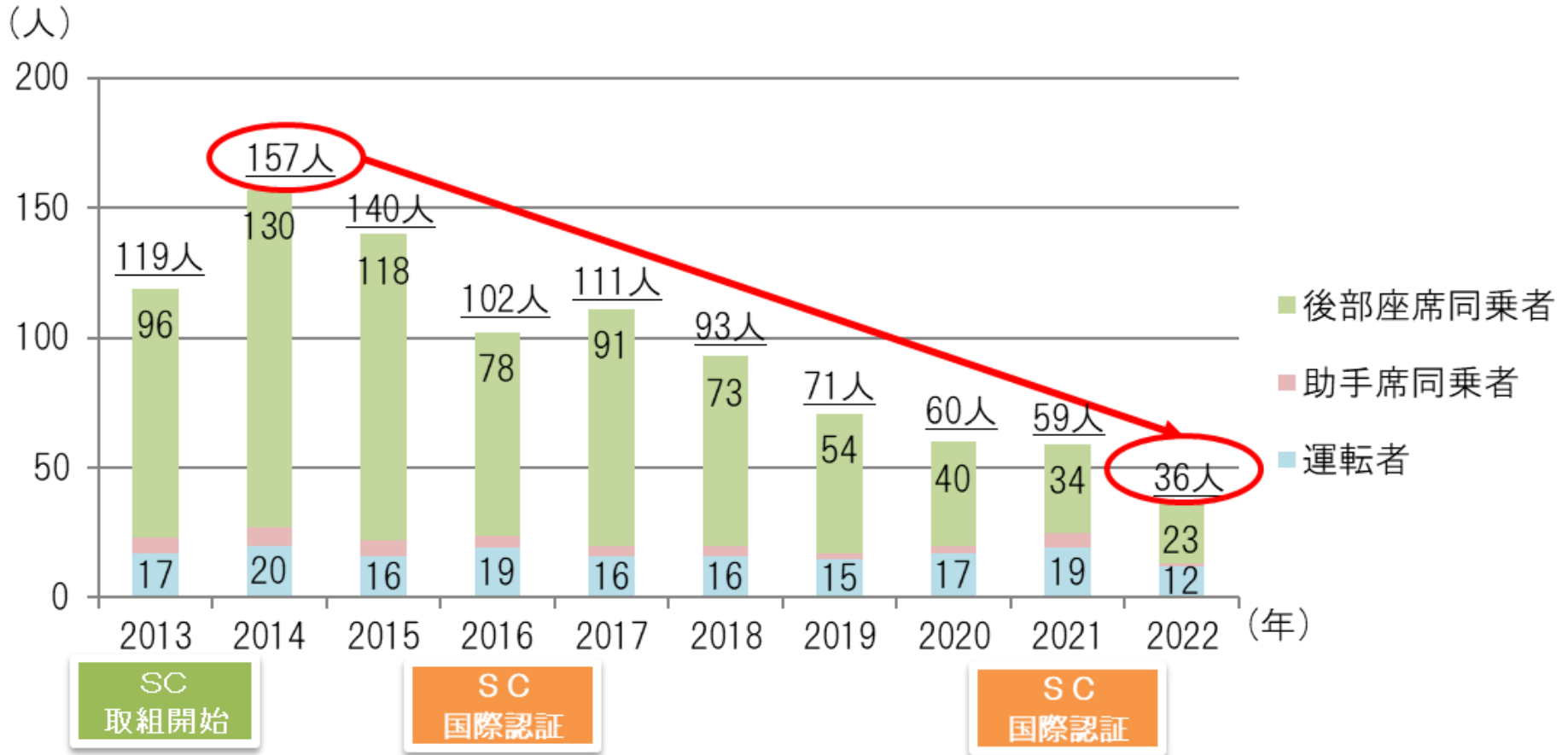
## ■シートベルト着用状況別の交通事故死傷者の割合



# 11 シートベルト未着用による交通事故死傷者数②

シートベルト未着用者による交通事故死傷者数は、2014年をピークに減少傾向にある。

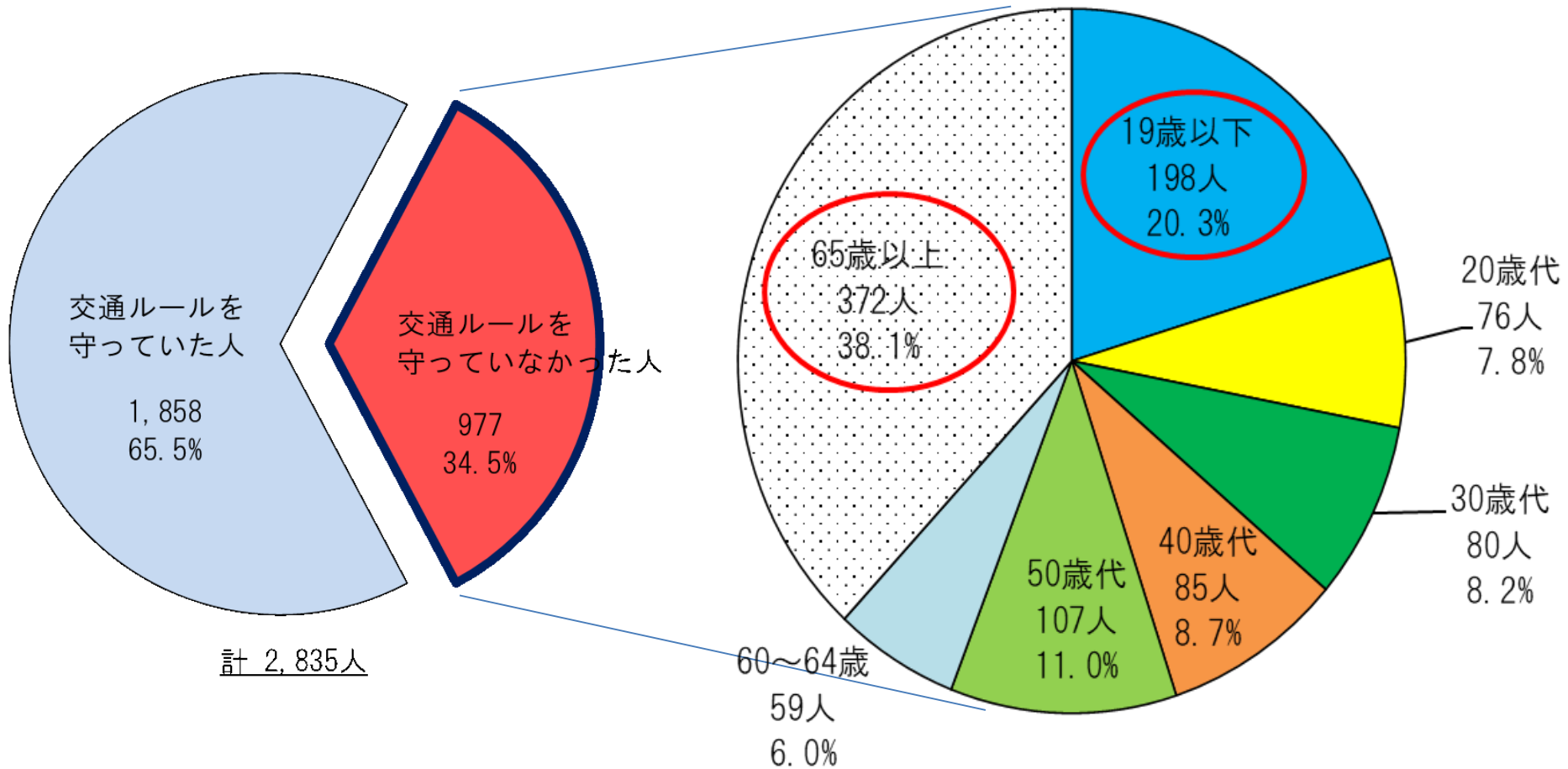
## ■シートベルト未着用者による交通事故死傷者数の推移



# 12 歩行中の交通事故死傷者の状況①

交通ルールを守らずに死傷した歩行者のうち、高齢者（約4割）や19歳以下（約2割）が多くを占めている。

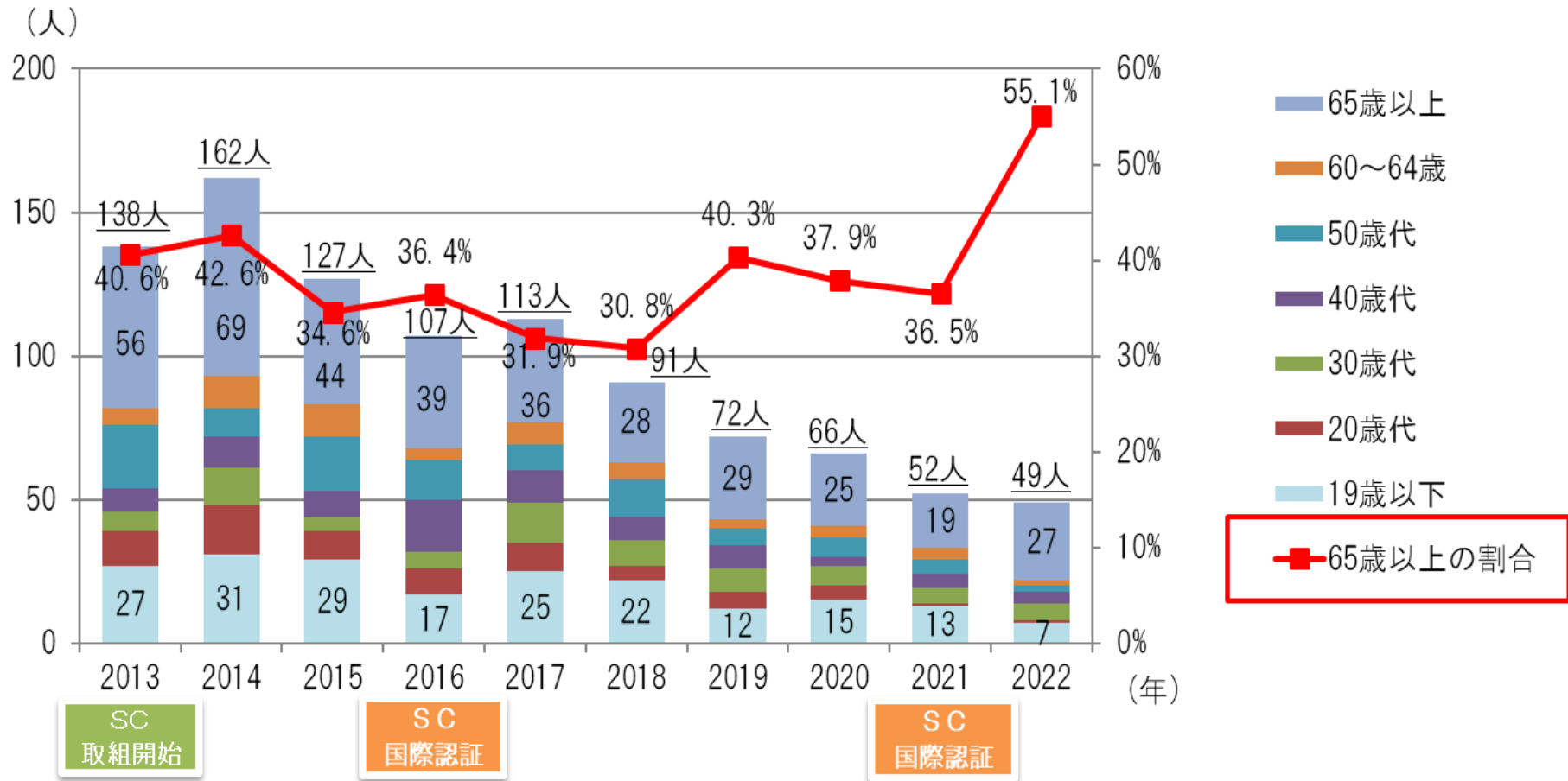
## ■ 歩行中の交通事故死傷者数の推移



# 12 歩行中の交通事故死傷者の状況②

歩行中の交通事故死傷者のうち、交通ルールを守らないで死傷した数は、減少傾向にあるが、2022年は65歳以上が、半数以上であった。

## ■歩行中の交通事故死傷者のうち、交通ルールを守らないで死傷した数



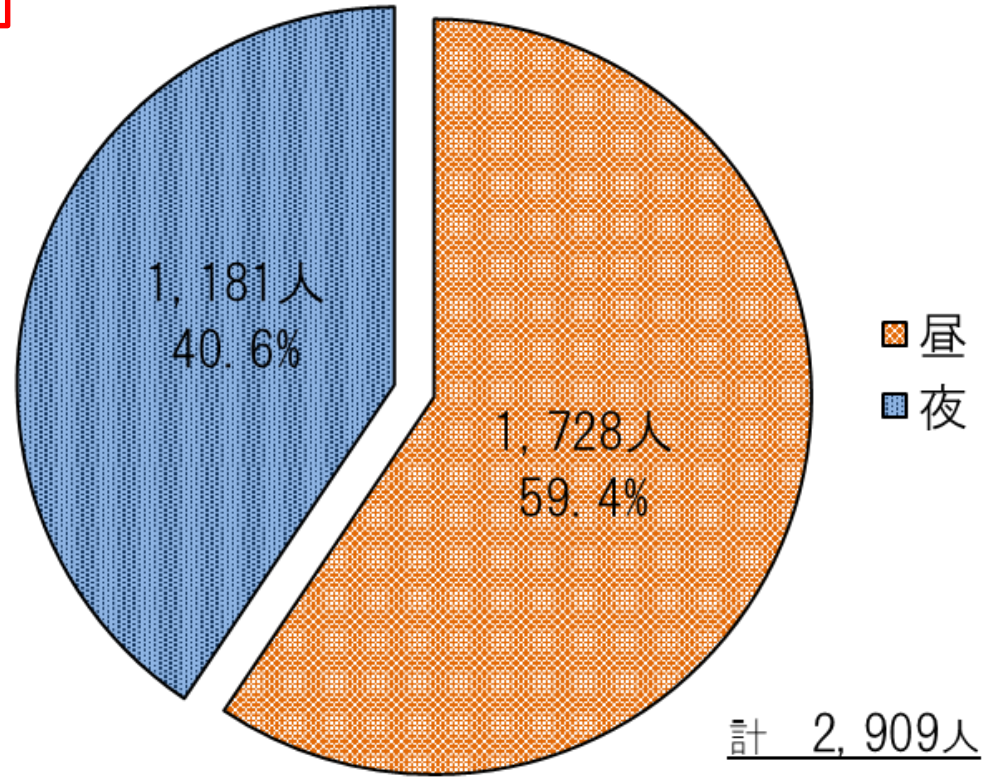
# 13 歩行中の交通事故死傷者数と夜光反射材着用率

歩行中の交通事故死傷者は夜間が約4割を占め、うち高齢者が多く、その大部分が夜光反射材を着用せずに事故に遭っている。

夜間の交通事故死傷者（歩行中）の  
**約98%**が、反射材非着用

**反射材非着用者**  
**1,154人**

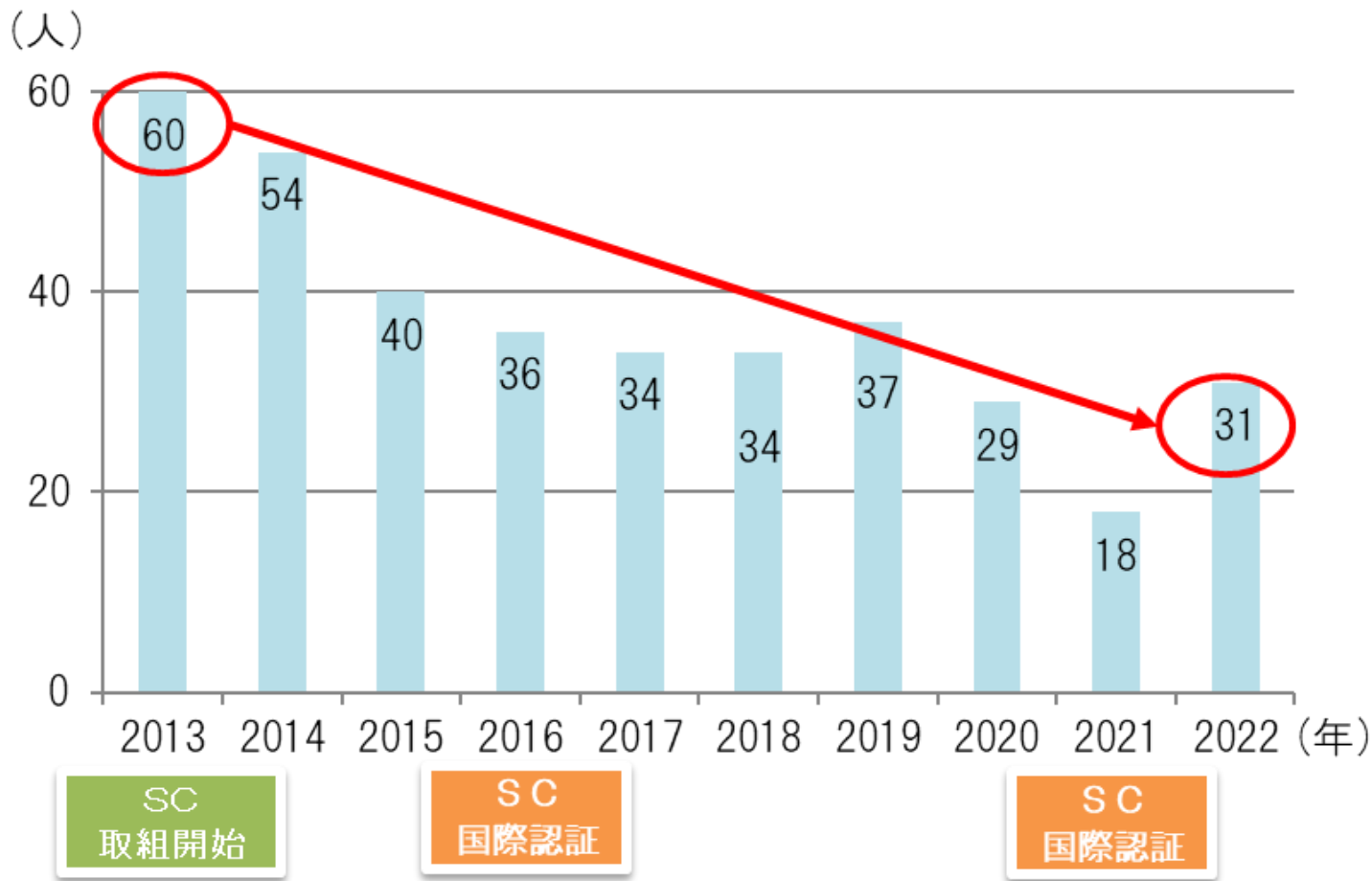
19歳以下	93人
20歳代	161人
30歳代	147人
40歳代	155人
50歳代	166人
60～64歳	74人
<b>65歳以上</b>	<b>358人</b>



# 14 夜間における歩行中の交通事故死傷者数（65歳以上）の推移

夜間における歩行中の交通事故死傷者数（65歳以上）は、減少傾向だったが、2022年は増加している。

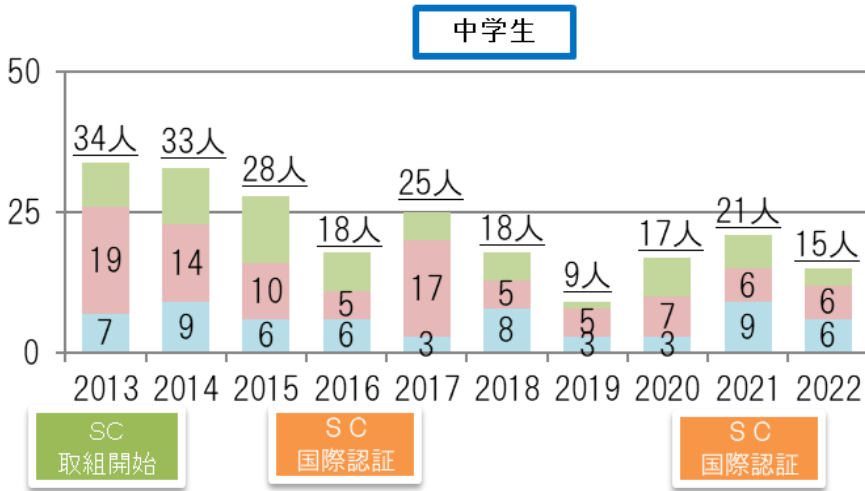
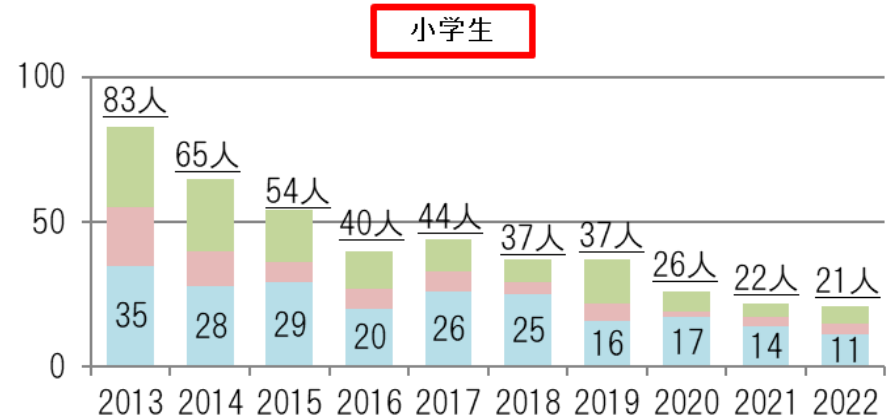
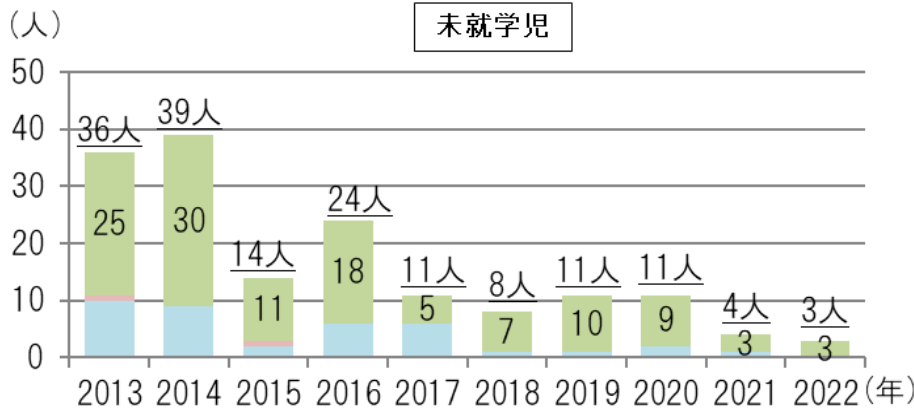
## ■夜間における歩行中の交通事故死傷者数の推移



# 15 学齡別・交通事故状態別（死傷者）の発生状況

小学生は「歩行中」、中学生は「自転車乗車中」や「歩行中」に死傷するケースが多い傾向にある。

## ■学齡別・交通事故死傷者数（状態別）の推移

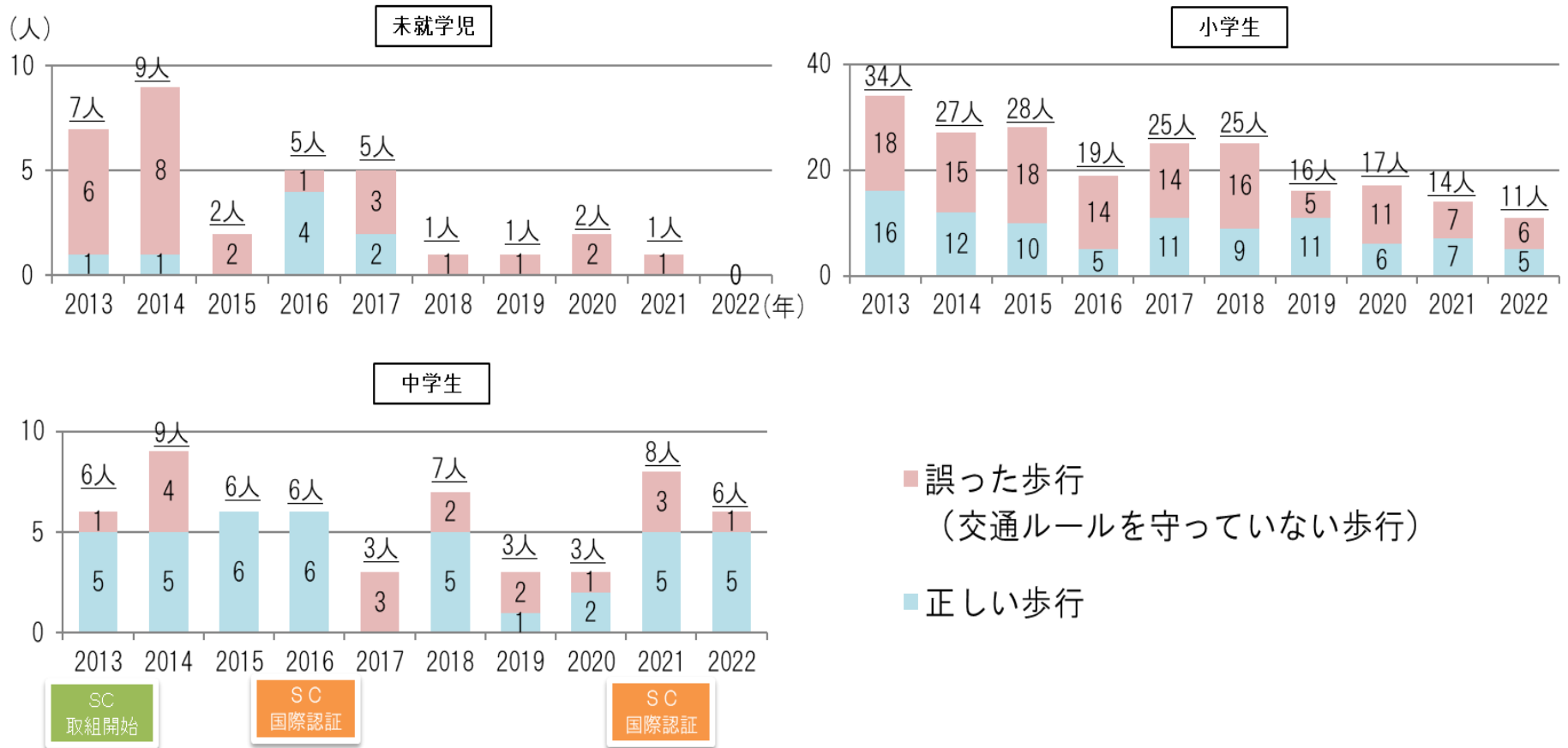


- 車両同乗中
- 自転車乗車中
- 歩行中

# 16 学齡別における歩行中の交通事故死傷者の状況

歩行中の交通事故死傷者は、小学生では誤った歩行の割合が高い傾向にある。

## ■学齡別における歩行中の交通事故死傷者の推移





# 17 学齢別における自転車乗車中の交通事故死傷者の状況

誤った通行による交通事故死傷者は、小学生・中学生ともに減少傾向にあるものの、2022年は全ての死傷者が、誤った通行によるものであった。

## ■学齢別における自転車乗車中の交通事故死傷者の推移

